

# むつみ

第47号 2001. 1

福島県土地改良団体職員連絡協議会

## 目次

### 次

「愛汗の会」に思う

土地連会津支部 永嶋千代子

全土連大会に参加して

新年のご挨拶 福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 松本充弘

1

「ハーモニー」

新年のご挨拶 福島県土地改良事業団体連合会

副会長 黒澤清

2

年女として つれづれに

第二十四回総会 福島県土地連合会

3

永年勤続 「あらいばた」

永年勤続表彰会 福島県土地改良団体連絡協議会

4

年余り時代ではない

職員業務研修会 福島県土地改良団体連絡協議会

5

米余り時代ではない

県外研修 北の大地「北海道」の研修

6

年女として つれづれに

県外視察研修（北海道）について 金山町土地改良区 若林豊昇

7

年女として つれづれに

県外視察研修 原町市土地改良区 鈴木幸雄

8

年女として つれづれに

県外研修会に参加して 昭和村土地改良区 小林甫

9

年女として つれづれに

北海道はでっかいどう 会津中央土地改良区 阿部護郎

10

年女として つれづれに

年男女 福島県土地連 眞藤佳久

11

年女として つれづれに

第二十三回全国土地改良大会 会津大川土地改良区 佐竹孝

12

年女として つれづれに

第二十四回全国土地改良大会開催について スポーツ少年団ソフトボール

13

年女として つれづれに

年男女 福島県土地連 真藤佳久

14

年女として つれづれに

第二十四回全国土地改良大会開催について 会津大川土地改良区 佐竹孝

15

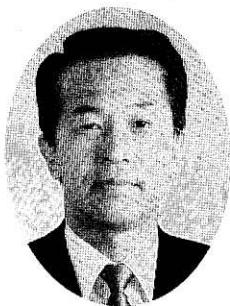
年女として つれづれに

表紙写真 藤田勝彦氏

農村景観写真コンクール 農村風景の部  
特別賞作品 “木造水路は秋の音”

撮影場所：館岩村

# 新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 松本 充弘

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新たなる世紀を迎える「如何なる決意で」等と言う言葉がどこ彼處で氾濫しているのであえて省略致しますが、今年と云わざ近年来少しでも良い方向、夢のある時代になつて欲しいと思うのは私だけでしょうか?

米一俵が一万五千円を割り、転作割り当てが三十五%という稻作農家のみならずため息がでる数字ばかりであります。思わず農業出身の国会議員は存在しているのかなと疑っても見たりります。そういう七月は参議院の通常選挙の年であります。我々も末端農家の想い嘆きを重々受けとめて一票一票の積み重ねを感じて欲しいものであります非農家のしょっぱい汗の味の解る段本さんには前任者に倍しての御奮闘を期待いたすものであります。

さて、十二年度当協議会では第二十四回総会及び研修会を土地改良会館に於いて百三十名を越える会員の参加の下開催いたしました。議事に先立ち永年勤続職員四十二名の皆様方を表彰致すことが出来まし

た。受賞された皆様に心よりお祝い申し上げますと共に、これからも地域にあってのますますのご活躍をご祈念致すものであります。

総会は表郷村土地改良区の荒井宏さんに議長の大役をお願いし、六議案全てを満場一致によりご承認頂きました。また県北農林事務所伊藤兼道農村整備部長、橋本県土地連副会長様にご臨席の上ご祝辞を賜り華を添えて頂きましたこと感謝申し上げます。

更には、公務ご多忙の中にあって、わざわざお出で頂き身近なお話をお聞かせ頂きました佐藤知事さんは本当に感激の極めであります。また、知事選に於きましては、圧倒的大差により四選を果たされました。佐藤知事さんは土地連の会長としての立場からも職員連絡協議会に於いてもこの上ない喜びと致すものであります。

また、昨年の県外視察研修は「第二十三回全国土地改良大会」の開催地でもありました。北海道旭川市において会員二十名の参加のもと開催することができましたが、連日、雨にたたられ参加された方々は大変ご苦労されたと思います。

しかし、北海道という広大な農地が私達の携わっている土地改良事業によって整備されたものでありますので、それを目にされた参加者はこれから業務に、大いに役立つものであつたと思うところであります。

最後に本会会員そしてご家族の皆様に於かれましては、どうか実り大きな幸多き年でありますことをご祈念し新年の挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



福島県土地改良事業団体連合会

副会長 黒澤 清

新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様におかれましては、新世紀の初春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、土地連の業務及び農業農村整備事業の推進につきましては、日頃より特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、農業基本法に代わって二十一世紀の食料・農業農村全般に亘る政策の基本的な理念と推進方向を明らかにした「食料・農業・農村基本法」が制定され、さらに「食料・農業・農村基本計画」が策定されたところであります。

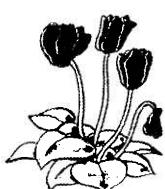
これらに示されている食料の安定供給の確保、多面的機能の發揮、農業の持続的な発展及び農村の振興という基本理念の実現に向け、地域住民の視点に立った生産基盤の整備、新たな時代に対応した農村の総合的整備の展開及び事業実施の抜本的改革を柱とする農業農村整備事業の新たな展開のため、現在、国においては、土地改良法をはじめとする関係法制度の改正が検討されております。

この様な状況のもと、土地連といたしましては、新たな時代に対応した農村の総合的な整備と、地域の特色を活かした農業農村整備等の重要性を十分認識し、会員へのサービスと、本会の指導的役割を一層發揮してまいる考えであります。

また、本年開催される「うつくしま未来博」の基本理念に基づき、開催期間中の九月五日に、「第二十四回全国土地改良大会」を本県で開催することとしております。

本大会では、大会関係者に加え一般の方々にも広くご参加を頂き皆様方と共に知恵を結集して、二十一世紀の日本の農業、農業農村整備の在り方、発展方向を考えることとしておりますので、会員皆様方の特段のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、会員の皆様方のご健勝と、益々のご発展を祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。



# 第二十四回総会

本協議会の第二十四回総会は、去る平成十二年七月二十一日福島市福島県土地改良会館において会員及び多数の来賓の出席をいただき開催された。

事務局の司会で、松本会長（請戸

川土地改良区）の挨拶のあと、永年勤続者表彰が行われ、表彰状と記念品が贈られた。

表彰されました方々は次のとおりです。受賞者の皆様おめでとうござります。健康に留意されまして益々

## 会長挨拶

本日ここに、平成十一年度通常総会を開催致しましたところ、会員の皆様には御多忙中にもかかわらず多数御出席を頂き感謝申し上げます。

また、御来賓の皆様をはじめ会員の皆様には、日頃、ほ場整備事業の推進はもとより農業農村の振興のため格別のご支援とご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり農業農村は、自然環境の維持、保全を図りつつ本来の機能を充分に發揮して農業農村の再構築を図ろうとするものであり、新しい基本法の制定を受け、



土地改良法についても新たな観点に立っての事業の在り方や、土地改良本協議会の果たす役割は大きくなる更なる推進のため改正の検討を行っているところであります。今後益々、本協議会の果たす役割は大きくなるものと考えておりますが、本協議会と致しても地域づくりのために、積極的に協力してゆきたいと考えております。

また、御来賓の皆様をはじめ会員の皆様には、日頃、ほ場整備事業の推進はもとより農業農村の振興のため格別のご支援とご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり農業農村は、自然環境の維持、保全を図りつつ本来の機能を充分に發揮して農業農村の再構築を図ろうとするものであり、新しい基本法の制定を受け、

の御活躍を祈念いたします。

続いて県北農林事務所伊藤部長、福島県土地連橋本副会長よりそれぞれ祝辞を頂戴した後、議事に入り、議長に表郷村土地改良区の荒井宏氏を選任した。議長の挨拶の後、平成十一年度事業報告及び収支決算が一括議題として事務局の説明、監査員の監査結果報告後、原案どおり承認された。

区の果たしている公益的な役割と重要性を認識した上で農業農村整備の更なる推進のため改正の検討を行っているところであります。今後益々、本協議会の果たす役割は大きくなるものと考えておりますが、本協議会と致しても地域づくりのために、積極的に協力してゆきたいと考えております。

県知事佐藤栄佐久様はじめ福島県土地連副会長黒澤清様におかれましては公務ご多忙にもかかわらず講師依頼を快くお受け頂き誠に有り難うございます。

なお、本日の総会には平成十一年度決算報告案件をはじめ、四件の議案を提出しておりますので慎重にご審議頂き円滑に議事が終了できますようお願い致しましてご挨拶といたします。

今後も先進地視察研修を実施する計画でありますので、より一層のご協力を願いとする次第であります。

また、本日ご講演を頂きます福島

次に平成十一年度補正予算、平成十三年度事業計画、収支予算並びに会費・協賛金の額及び微収方法を提案し、事務局の説明後いずれも原案どおり可決された。

永年勤続者表彰



二十年勤続		所屬団体名		福島県土地改良事業団体連合会		氏名	
"	"	安積疏水土地改良区	塙町土地改良区	相馬北部土地改良区	矢吹西部土地改良区	大信村土地改良区	福島山麓土地改良区
"	"	小野浩一	三本木伸光	福田浩一	武田博之	薄井房幸	佐藤貴子
"	"	石井知子	鈴木浩	佐藤智子	大桃智子	渡部裕子	佐藤照嗣
福島県土地改良事業団体連合会	四時川沿岸土地改良区 井上用水堰土地改良区	下山田とみ子	小宅義孝	人見佳信	桜井純	石幡佳信	人見嘉一

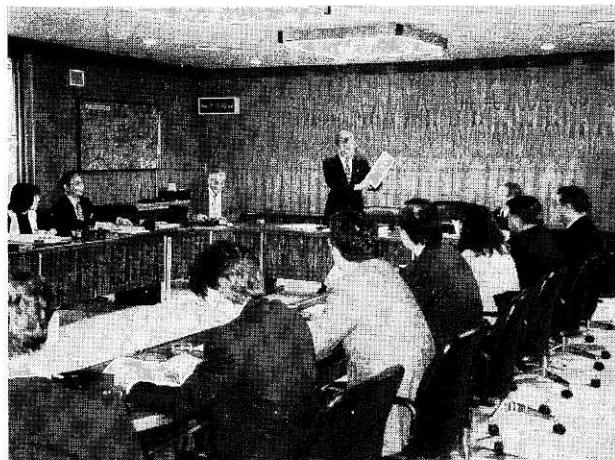
# 職員業務研修会

## ○職員業務研修会

本協会主催の研修会は、「農業農村整備と土地改良区の役割について」を県土地連副会長黒澤 清氏に、「二十一世紀の県政の課題」を福島県知事佐藤栄佐久氏に講演を頂いた。講師の先生には公務ご多忙のところ意義深いお話を頂きありがとうございました。

翌日は現地研修とし、福島市農道離着陸場ふくしまスカイパークの見学を行った。





\*先進地視察（県外）研修

平成十二年九月十三日（木）～十五日（金）の三日間、北海道において事業視察研修を行いました。

研修地、深川市の道営担い手育成ほ場整備事業「北水源地区」、北見市・端野町の国営畠地帯総合土地改良パイロット事業「北見地区」の概要等について紹介致します。

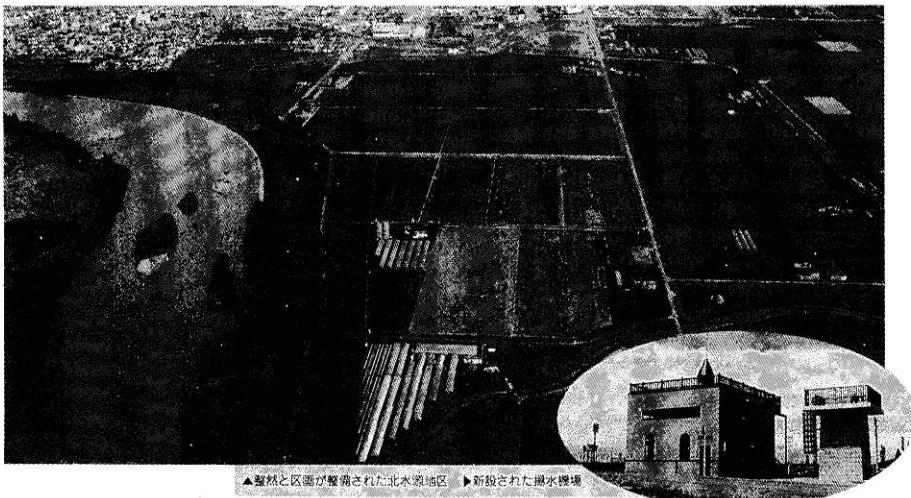
県

外

研

修

## 反転均平法をはじめ 新技術を導入



道営担い手育成ほ場整備事業  
【北水源地区】  
深川市（空知支庁管内）

工事費低減を  
図る

深川市を含む北空知地域は、コメどころ空知の中でもとくに良質米の産地として知られ、スケールメリットを生かした効率的な水田農業経営を開拓してきました。近年は、「きたら397」や「ほしのゆめ」といった良食味米の品質向上に積極的に取り組むなど、本道を代表する稲作穀倉地帯となっています。

北水源（きたすいげん）地区は、深川市東部に位置し、石狩川と入志別川の合流地点近くにある平坦な水田地帯ですが、稻作の歴史を裏付けたように各農業用施設の老朽化が進み、用水不足や湿害が度々起つていきました。そこで安定的な用水の確保や排水機能の改善と共に、区画の拡大による作業性の向上や、暗渠排水による乾田化の促進など、農業生産効率の向上を目指し、平成九年度から担い手育成ほ場整備事業を実施しています。この事業を導入した背景には、担い手の不足とともに農業従事者の高齢化が進行している現状を踏まえ、若い後継者が農業に取り組みやすいように生産環境を整え

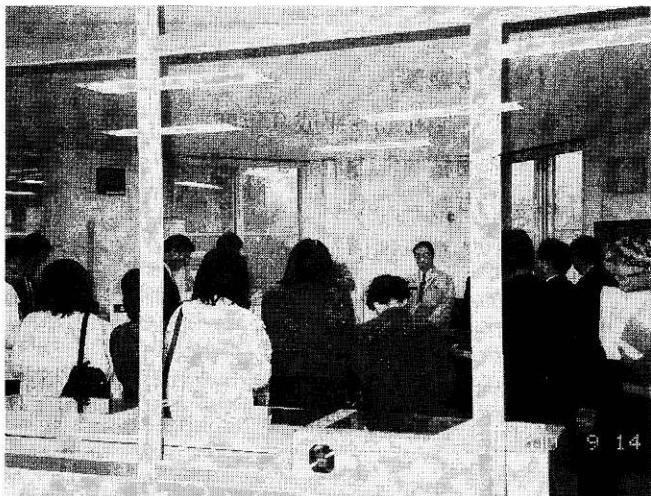
るねらいもあります。

区画整備工の実施に当たっては、従来工法より運土量が少なく、低コスト施工が可能な「反転均平工法」をモデル的に導入しています。この工法は、ゴムクローラトラクタ牽引によるレーザープラウ、レーザーレベラーを利用して新しい整地工法で、表土扱いを行う場合に、運土量が少なくなるほか、ほ場をあまり傷めることなく施工でき、併せて工事費の低減も期待できます。

#### 【事業の概要】

- ◆受益面積=51.0ha
- ◆受益戸数=12戸
- ◆総事業費=7億7,760万円
- ◆事業期間=平成9~13年度
- ◆主要工事=整地工37.2ha、道路工4,4420m、用水路工2,900m、揚水機場1か所、排水路工1,860m、暗渠排水37.1ha、客土工24.7ha

このほか、暗渠排水管を利用した「地下かんがいシステム」や、水管理の自動化、管理作業の軽減を図る用排水路のパイプライン化（農道の下に埋設）、機械の走行性を向上するターン農道の採用など、特徴ある技術を多く盛り込んだ整備が進められています。



## 肥培かんがいを併せ行う

—— 102kmのパイプラインを網羅



### 【北見地区】

国営畠地帯総合  
土地改良パイロット事業事業

(網走支庁管内)

北見市・端野町

# 畑かんて農地が生まれ変わった

現在ではタマネギの产地として全國でも名高い北見地区ですが、同地方は年間を通じ日照時間が多く、農耕期である五～九月の降水量が四百三十五ミリメートルと非常に少なく、また、農地の大半が火山灰性土に覆われるなど土地条件にも恵まれず、地元農家は収量の低い生産条件に悩まされていました。

昭和四十五年、こうした農業生産の条件を改善しようと北見市、端野町の五千三百三十ヘクタールの畑作地域に明渠排水、農地造成、畑地かんがいを柱とする同事業を導入しました。

深刻な水不足を解消するための主要工事のひとつとなつたのが仁頃川上流に建設された総貯水量二千八百立方メートルの富里（とみさと）ダム。同六十二年に共用を開始したダムからは総延長百二キロメートルのパイプラインが地区内を網羅し、スプリンクラーによる散水かんがいを行っています。中でも特徴的なのは、酪農から提供された家畜のふん尿を使つた肥培かんがいも併せて実施

されている点です。

同事業の効果はタマネギ、ビート、馬鈴しょといった作物の収量アップにつながつたのはいうまでもなく、品質面でも良質の作物を安定的に生産することが可能となり、農業経営基盤の強化を図つています。中でも畑地かんがいは、品質の向上や馬鈴しょのそとか病抑制などにも威力を発揮し、今後ますます北見地区の農業生産の発展に寄与するものと思われます。

## 【事業の概要】

- ◆工期=昭和45～平成9年度
- ◆受益面積=5,130ha
- ◆受益戸数=656戸
- ◆主要工事=畑地かんがい2,520ha（うち肥培かんがい508ha、道営分含む）、富里ダム（中心コア型ロックフィルダム）、排水路69km、農地造成825ha、土壤改良780ha、暗渠排水230ha



## 北の大地 『北海道』の研修

金山町土地改良区

若林 豊昇

九月十三日から十五日までの二泊三日の行程で、北の大地『北海道』の視察研修に参加させていただいた。冒頭、このような機会を与えて下さった関係各位には厚くお礼を申し上げる次第である。

私は、ここ数年、遠方への旅行にはほとんど天候に恵まれず今回も心配はしていたのだが、その予感は見事に的中してしまった。広大な大地けたのを契機に、林間歩道やキャンプ場などの多目的施設を整備しました。富里湖森林公园として生まれ変わつた施設は現在、市民の間に「いこいの杜（杜）」として親しまれています。

さて、私は道南へは過去に数回行っているのだが、道北、道東へは三十数年前バイクの一人旅をした以来の

旅で、しかも今回の行程が當時とほとんど同じルートであるため、非常に興味がありました期待もしていた。

朝の新千歳空港はどんよりと曇り、九月半ばにしては肌寒かった。今回の参加者が二十名と少ないこともあり、貸し切り大型バスのシートは誠にゆったりである。初日の研修地深川土地改良区では、田のほ場整備事業でも、内地においては見られない北海道ならではの工法や規模を観察することが出来た。農家の負担軽減と農作業の省力化に向けた新技术を積極的に導入し、いかに低コスト化を図り新工法を採用するかが課題であつたらしい。また、現地観察した大型区画水田試験は場では、将来を見越した水管理システムの実証、確立のための調査状況であつたが、随所に新技术が採用されており関係者の旺盛な研究心との得た発想には感心させられた次第である。一日目の研修を終え一路層雲峠へ向かうが、途中より雨に見舞われてしまつた。三十数年前に見た壮大な柱状石理は、そのほとんどが雲と霧に閉ざされ、紅葉も墨絵と化してしまつている。渓谷を縫うように走る道路は、先の落石事故によりトンネル化してしまった。かくして、初日の最大の

観光スポットである層雲峠は、ガイドの力の入れようも相当なもので、私達が呆れるぐらい詳しい説明をしてくれるのだが、その感動がイマイチ沸いて来ないのが残念であった。明日はきっと晴れることを祈りながら『ホテル大雪』で一日の疲れを癒す。

研修中日。ガイドの夜半までの祈りも空しく朝から雨である。大雪山系の山間を抜け、北見平野へと入って行くが、やはり広大な平野は霧と雲に覆われ、その広さを実感することは出来ない。しかしながら、道路沿線に玉ねぎとビートの畑が延々と切れ間なく続いて行く車窓からの風景から、その広さは容易に想像出来るのである。収穫を終えたばかりの玉ねぎの一トンコンテナが、黄色いシートを被り畑の中に規則正しく並ぶ風景は実に壯觀である。この日は、車窓のそんな單調な風景を眺めながらも、ガイドから北海道の開拓史に耳を傾けることが出来た。それは、

日頃から、北海道は比較的新しい先進的な土地であると単純に認識はしているのだが、人が生活して行く上で基本となる道路や田畠一つをとっても、そこには多くの開拓者による凄惨な血と涙の歴史が刻まれていることを再認識させられた旅でもありました。

終りに、今回同行させていたいだいた県内土地改良区職員各位と、お世話をいただいた土地連事務局ご担当者に心から御礼を申し上げます。

の摩周湖、小雨降る阿寒湖を一通り観光後、一路空港まで四百数十キロ延々約八時間のバスの旅となる。平野あり峠あり樹海ありで、車窓からの景色は変化に富んでいるが、眺望が悪く単調な旅である。ガイドより、次回は必ず晴れすればらしい北海道の景色をお見せすることができるだろうから、来年も是非北海道を選定してくれと懇願され、五時五十分発ANA三六四便にて北海道を後にした。

日頃から、北海道は比較的新しい先進的な土地であると単純に認識はしているのだが、人が生活して行く上で基本となる道路や田畠一つをとっても、そこには多くの開拓者による凄惨な血と涙の歴史が刻まれていることを再認識させられた旅でもありました。

全国有数の玉ねぎ産地である北見市は、ちょうど収穫期を迎えた地平線まで広がる見渡す限りの玉ねぎは、壮觀でした。この地が以前ハッカで栄えたとは想像できません。帰路、メロンで有名な夕張を通過中、ガイドさんから一流ブランドとして現在に至った経過等を聞きながら、車窓から季節はずれではありますが、メ

に雨脚の強くなつた網走オホーツク流水館と網走監獄博物館を観光して、川湯温泉泊となる。

研修最終日。やはり雨である。霧

原町市土地改良区  
鈴木幸雄

ロン栽培の立ち並ぶハウスを見たとき、ここがあのメロンを育てた土地かと感慨深くなりました。厳しい自然環境の中、試行錯誤を重ねながらその土地にあった作物を見い出し育て軌道に乗せるまでは、一朝一夕ではいかなかつたでしようし、並々なはいかなかつたでしようし、並々ならぬ苦労と努力があつたことが想像されます。

今回、深川並びに北見土地改良区のお計らいによりまして、広大な農地（大区画水田水管理システム試験田）、そして大規模な農業用施設（富里ダム、パイプライン）を研修させていただき、北海道における農業の実態のほんの一部が理解できたよう気がして大変有意義でありました。最後になりますが、事務局であります土地連の方をはじめ、各土地改良区の皆様には大変お世話になつたことを感謝申し上げまして最後にしたいと思います。

### 県外視察研修

昭和村土地改良区 小林甫 北海道研修の感想原稿依頼がありました。

あすから北海道の視察研修だ。今日の天気は良くない。北海道の天気はどうだろう？ NHKテレビの天気予報、北海道の天気は良いようだ。当日朝五時出発、金山町土地改良区の若林係長の車に同乗させてもらい、羽鳥湖経由で福島空港へ。まだ誰も来ていなかつた。時間になると皆集まる。一路北海道千歳空港へ。

空港着陸。北海道の天気は曇り、天気予報は良かつたのに残念だ。誰が本土の悪い天気をもってきたのかと思いながらバスへ。やっぱり北海道だ。広い大地、馬鈴薯畑、あのコンテナは何だ、玉葱の一トコンテナだそうだ。

土地改良区の研修、広い大地での土地改良事業面積は大小に関わらずやはり問題点は同じである。農家の負担、償還の問題、これぞ農家経済の容易でない現実であることを痛感いたしました。ダムも研修いたしましたが、私の地は河川より自然取水

昭和村土地改良区 小林甫 来たことが、後日どの場にかおいでお会い出来た時に、あの方にお会いしたことがある、そうだ北海道研修に一緒だったと言葉を掛け合える日があることを期待致します。

北の大地は広かつた。

事務局のご苦労に感謝します。いろいろとお世話ありがとうございました。

本年度の北海道視察研修には、県内の土地改良区職員と福島県土地改良事業団体連合会より事務局として柴木龍輔課長と斎藤佳久主事の総員二十名が参加し、九月十三日より、二泊三日の日程で北海道の土地改良事業を視察研修致しました。

会津中央土地改良区 阿部謹郎 県外研修会に参加して

会津中央土地改良区 阿部謹郎

でありダムはないので、水の不足する土地はこの巨大なダムを作り取水しなければならないので大変な事だと思います。今回の視察研修に参加して県内の同じ職の方々と共に行動し、夜の懇親会で盃を酌み交わし交流出来たことが、後日どの場にかおいでお会い出来た時に、あの方にお会いしたことがある、そうだ北海道研修に一緒だったと言葉を掛け合える日があることを期待致します。

北の大地は広かつた。

事務局のご苦労に感謝します。いろいろとお世話ありがとうございました。

本年度の北海道視察研修には、県内の土地改良区職員と福島県土地改良事業団体連合会より事務局として柴木龍輔課長と斎藤佳久主事の総員二十名が参加し、九月十三日より、二泊三日の日程で北海道の土地改良事業を視察研修致しました。

初日は、福島空港に午前八時までに県内各地より集合し、日本航空八〇一便にて新千歳空港へ飛び、空港当着後、道央自動車道で研修先に向かい、途中滝川で昼食をとり、午後深川土地改良区を訪問し、大型ほ場での稻作栽培について御指導を頂きました。

研修後、紅葉の層雲峠温泉に宿泊し、楽しい最初の夜を過ごすことが出来ました。

二日目は天候には恵まれませんでしたが、層雲峠より石北峠を越え、午前中に北見市の北見土地改良区管理のダムを訪れ、畑かんがいについて御説明を頂き、北海道の畑作の実態にふれることができました。



午後は更に降雨がひどくなり、悪天候の中での網走監獄博物館とオホーツク流水館の見学となりましたのは、いかと恐縮をしたところです。

しかし、その晩は川湯温泉にゆつくりつかり、全員が日頃の疲れを癒すことが出来たものと思います。

三日目に訪れた摩周湖は、意外にも霧も晴れて、全景を見渡すことが出来、全員感嘆の声を上げ、楽しい思い出とすることが出来ました。

この研修に御一緒させて頂きました皆様方の今後の御活躍を切に願うものであります。

最後になりますが、私も平成十三年三月に三十年近い土地改良区勤務を終えることになりますが、又、別

な立場で土地改良事業に関わりを持ち続けてゆきたいと考えておりますので、今後も皆様方とお会いする機会もあろうかと思います。

この間、皆様方よりお寄せ頂きました御厚情に深く感謝申し上げますと共に、本会の今後益々の御隆盛をお祈り申し上げます。

水田は、福島県で行っている営農規模の約倍（四町歩×二・五町歩）もあり、畦道については、ターン農道方式という大型機械が隅々まで直線的に移動できる手法を取り入れら

## 「北海道はでっかいぞう」

福島県土地連  
斎 藤 佳 久

平成十二年九月十三日から十五日までの二泊三日、北海道深川市の「北水資源地区」と、北見市の「富里ダム」を視察研修した。

福島空港を出発し、約一時間で到着した視察先の北海道は、本土とはまるで違う世界が広がり、道という道は直線に延びて広く、見渡す限り海もなく山もない「地平線」と言われる線を始めてこの目で見ることができた。

しかし、初日の天気がうそのように、二日目、三日目はあいにくの雨となり、移動するバスの車窓からは水滴でぼやけた景色しか見えず、残念で仕方がなかった。

さて、視察先の印象ですが「でかい」、この一言につきるように思えます。

私自身、本会に勤務して六年目を迎えるが、事務の業務を行っていながら出張することがほとんど無く、作業の時間短縮上、理想像などではないかと思えた。

自身、本会に勤務して六年目を迎えていたときに、今回のこの研修に参加できたことは、農業農村の設計業務にとって、「現場が大切」ということをつくづく考えさせられるものであり、私自身が今後行っていく業務にとても役立つものとなりました。

れでおり、また、使用されている農機がこれまでかい。

よくニュースで海外の農業特集に出てくる農機を使用しており、一反歩は二往復ぐらいで全て終わりそうな大きさでした。

畑についてはたまねぎ畑が印象的で、二百m四方に縦横均一に収穫前のたまねぎが、ところ狭しと並んでおり、雨のためバスの窓からしか見ることが出来なかつたその風景は、あんパンの真ん中にあるゴマのよう

日の予定で参加者を募りましたところ参加希望者が十名に満たなかつたため中止といたしました。

## \* 海外視察研修

## 第23回全国土地改良大会

とき  
世紀を超え、生命かがやく水と大地の恵み

北海道



20世紀を締めくくる節目の年に新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、我が国の農業をさらに飛躍させることを目的に「世紀を超え、生命かがやく水と大地の恵み」をテーマとして、第23回全国土地改良大会が9月5日に旭川市の旭川大雪アリーナにおいて開催された。

大会は、道内2,000人、道外2,000人、計全国4,000人の土地改良関係者が参集して開催された。

式典は、始めに北海道土地連小澤会長が開会挨拶、国家齊唱に続き、榎木全土連会長が主催者を代表して挨拶。北海道堀知事代理の原上川支庁長、旭川市長より歓迎のことばが述べられた後、来賓祝辞があり、農林水産大臣の祝辞を渡辺構造改善局長が代読した。

土地改良功績者表彰に移り農林水産大臣表彰6名、農林水産省構造改善局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰48名が晴れの栄誉に浴した。本県からは農林水産省構造改善局長表彰を請戸川土地改良区理事長（浪江町長）の叶幸一氏が、全国土地改良事業団体連合会長表彰を前表郷村土地改良区理事長の鈴木伊佐巳氏が受賞された。

次いで、佐藤構造改善局長が基調報告を行い、農業農村整備事業をめぐる最近の情勢についての報告があった。

大会宣言は、旭川市在住の農業後継者の2人が力強く朗読。先人たちの苦労に思いを馳せつつ私たちに託された「生命かがやく水と大地の恵み」を守り育てる責務を改めて再認識し、来る世紀に向けて、関係者一丸となって農業・農村の整備に取り組むことを力強く宣言すると結んだ。

次期開催県である本県土地連の橋本副会長へ大会旗の引継が行われた後吹田全土連副会長による万歳三唱、佐野北海道土地連副会長の閉会挨拶があり大会式典は盛会裡に閉幕した。

# 大會宣言

農業・農村は、食料生産により人間の基本的な営みを支えるとともに、農業生産活動を通じた大きな循環の流れの中で豊かな生命を育み、自然環境の保全、良好な景観形成、文化の伝承など多面的な機能を発揮し国土を支えてきた。こうした農業・農村の発展は、気候、風土、土地条件などの変化に富んだ国で、先人たちが長い歳月を重ねて「水と大地」に巧みに働きかけてきた土地改良の歴史的成果である。全国各地の農村では、土地改良の成果を享受しながら、それぞれの地域の特色を生かした多様な農業が展開され、その地域独特の農村文化を生み出してきた。

私たちは、こうした豊かで、美しいふるさとをこれからも守り育て、次の世代に引き継ぐ責務を負っている。

いま、新しい世紀の幕開けを前にして、人口の爆発的増加による飢餓、地球温暖化など、食料、人口、環境といった地球的規模での課題に直面しており、その解決に向けて農業・農村に対する期待は益々高まっている。このような状況の中で、本年3月、食料・農業・農村基本計画が策定され、21世紀に向けた農業・農村づくりはいよいよスタートした。

この基本計画を実現するため、国民的課題

である食料の安定供給に向けた生産基盤の整備を積極的に展開するとともに、生態系の保全や美しい農村景観の形成など、環境との調和にも配慮しながら農村の整備を着実に進め、地域の特色を生かした農村の振興を図ることが求められている。そして、「水と大地」という農業にとって最も基本となる資源の適切な管理体制の強化などを通して、農業・農村の持つ役割の一層の発揮に向け、努力することが期待されている。

北の大地に開拓の鍬が入れられて一世紀。先人の血のにじむような努力と汗により、緑豊かな農地に変貌をとげ、さらに冷害や凶作も見事に克服し、今屈指の農業地帯に生まれ変わった旭川の地で開催された20世紀最後の全国大会。

この地に集った私たちは、先人たちの労苦に思いを馳せつつ、私たちに託された「生命かがやく水と大地の恵み」を守り育てる責務を改めて確認し、来る世紀に向けて、関係者一丸となって農業・農村の整備に取り組むことを、ここに力強く宣言する。

2000年（平成12年）9月5日

第23回全国土地改良大会



浪江町長  
請戸川土地改良区理事長

叶 幸一 氏

◎構造改善局長表彰



前表郷村土地改良区理事長

鈴木伊左己 氏

◎全土連会長表彰

土地改良功績者

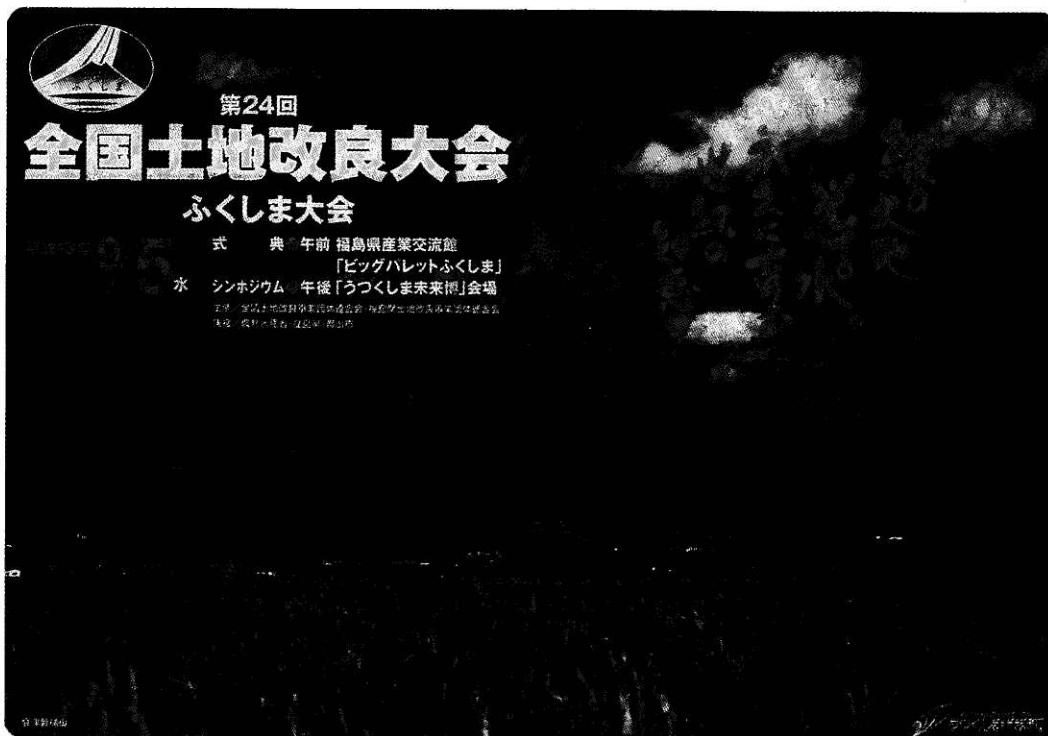
第24回  
全国土地改良大会  
ふくしま大会

開催について

第24回全国土地改良大会が平成13年9月5日（木）に福島県郡山市、須賀川市において開催されます。

式典は午前10時30分から12時まで郡山ビックパレットふくしま（福島県産業交流館）において、シンポジウムは午後2時から4時まで、須賀川市で開催する「うつくしま未来博」会場において行われます。

本大会は、『緑の大地、光る水。永久に育む世紀の知恵！』をテーマとし、新しい農業基本法「食料・農業・農村基本法」による農業農村における食料の安定供給の確保、多面的機能の発揮、農業の持続的発展、農村の振興を着実に推進するため、従来に増して農業農村整備事業の重要性とその役割を広く国民にアピールするために、全国の土地改良関係者が一堂に会し、21世紀の時代に農業農村整備事業の展開と決意を新たにし開催するものです。



# スポーツ少年団ソフトボール

会津大川土地改良区 佐竹孝

「声だして、しまっていこう！」

今年に入つて毎週土日何回かグランドにこだましたか。いやほとんど毎日かもしれない。仕事を終えまっすぐグランドに行つて、子供達が待つていると

思うと休めない。

地元のスポーツ少年団ソフトボールチームの指導をやつてくれないかと父兄から言われたのが、去年の七月頃であった。その父兄は、育成会の会長をし私とまた同級生で、仕方なく引き受けたのだ。しかしやる

からには、中途半端な気持ちは、引き受けできない

ことでは、技術より礼儀作法をしつかり教えた。指導を引き受けたのも、結婚する前、十九才から五年間少年野球を経験したので、ある程度やれる自信があつたからだと思います。その後マラソン・バドミントン等をやつていたが、今から七、八年前ジョギング中に足を挫いてそ

れから腰を痛め、現在も無理出来ない体であるが、でも何かスポーツを

通してやりたい気持ちは続けてあつた。今回引き受けたタイミングが良かったのかもしれない。今年に入つて、ほとんど毎日練習、土日は練習試合、公式試合を含め約六十試合位

消化した。勝ち負けは、その時の運であり重要な視しなかつたのだが、最後の公式試合は、勝負にこだわつた。逆に選手達が、優勝するぞと意気込みがすごく感じられすごいチームになつたと満足しながら試合を采配していた。結果見事優勝、選手達の感激は最高であった。

ソフットボールを通して得たものは、子供達には、計り知れないものがあるんだなと感じられました。最近のこと

高郷村は、際立つて自慢するものもありませんが、強いて言えば、県営漕艇場、カタクリの花が咲き誇る鳥屋山、化石で知られる古代恐竜の里などですが、私の住んでいる所は阿賀川と美しい山々に囲まれ、春は、若葉の息吹を感じ、夏は、深緑の中、阿賀川からの清風が身を誘い、秋には、真っ赤な紅葉の絵模様もつかの間、冬の厳しい銀世界へと、早足で駆けよってきます。

「愛なき人生は、暗黒なり」

新聞紙上でにぎやかに報道され問題になつてているが、スポーツをやつている子供達には、無縁だとつくづく思いました。

子供達に、教えていることは、自分にも勉強になり逆に教えられるこ

と数多いです。いつまで続けられる

かわからないが、体力の続く限り地元の子供達と汗水流しながら来年も続けるつもりでいる。

我が仕事に影響しない程度にやる

つもりでいる。今年も「もつと声出して行こう！」と自分と子供達にハッ

パをかけながら、年男なので後十二年はがんばるつもりでいるが……。

## 『愛汗の会』に思う

福島県土地連 永嶋千代子

に考える、さわやか共育セミナー、村内の環境美化標語と看板の設置、村の歴史や自然を探索し、会員が集い、楽しい一日を過ごすことが、この会の行事として、私も参加させて頂いております。常日頃、村の方々とも出会うことの少ない中で、心待ちにしています。

この会の会員には、「愛」「向上」の五十ページ程の小誌ですが、毎月届けられます。今月の「向上」の中

で、「愛がすべてをいやしてくれる」と言うテーマを読み、良い大学を出

て、良い会社に就職し、そこそこに出世すれば、それで良い人生だと考えていた私は、「自分とは何か」「愛とは何か」について、深く考えさせられました。愛とは、宇宙と自然は

# 年男女

ひとつものであり、愛する力は、私達を通して流れる神の力で、私達一人ひとりが愛を世の中に伝える神の道具なのではないかと、考へるようになりました。

私は、「愛汗の会」に参加して、多くの方々との出会いを大切にし、人間は、愛を伝える道具ならば、そのことに汗をして、私自身のこれから生き方に、少しでも役立つことでも新しい自分を見出すことができたらと、今、

# 年男女年年

## 全土連大会に参加して

安積疏水土地改良区 伊東喜一

土地改良区に奉職して四

貴重な一時を経験させて頂いたこともしかりである。

十年余り、土地改良関係の研修会、総会、××大会等に参加させて頂いた機会は数多く、その都度その会合で提案される内容として現地視察は、改良区の職員として仕事を進める上で何かと参考になつたと思って。同時に会合に参加している時間は、勤務先を離れ常日頃面識の無い他団体職員の方との交流があり、職場では得られない

この歳「巳年」を迎えて感じた私です。

修養団のしあわせの種まき運動であります

「こんにちは」という、ふれあいの種

「どうぞ」という、思いやりの種  
「ありがとうございます」という、よろこびの種  
この三つのしあわせの種を、毎日の生活の中で、家庭、地域、職域のしあわせづくりに、少しでも役立つことができたらと、思いつつ……。

招待人数四〇〇人を超えて、国際議員を始めとして農林水産省構造改革局長そして駐日オランダ王国特命全権大使、県知事ほか各位を招待しての大規模な式典となつた。

式典開催に当たり諸問題を処理し

なければならぬことが数多く、神事は、式典進行は、席順は、大使館の手続きは、受付は、貴賓室の対応は、アトラクションは、国家公務員倫理規程等々いずれも見落としの許されない事ばかりであった。

時に時節柄、倫理規程の取り扱いに最初から最後まで気を配り式典運営に当たったのは改良区に勤めて始めての経験であった。

前に戻るが、このような式典を控えていた為、全国土地改良大会は物見氣分での参加は許されないと心に思ひながら（勿論、福島県土地連の役職員の方も私共以上の心構えであったと思う）福島空港から千歳を経て旭川市内のホテルに到着、手荷物を整理し小休憩後一階レストランで夕食タイムとなつた。

本大会参加内容に触れる前に、少々横道に逸れるが、去る九月下旬安積

スリ側とどのような打ち合わせをしているか存じないが、レストランの第一印象として我々のテーブルに対する対応は先ずお粗末であった。注文した「食事」が運ばれてくるまで長い時間がかかったこと、しかも一人前の膳が揃うまで更に時間がかかる流石に安積疏水理事長も旅の疲れが手伝つたのかレストラン従業員に大声を發してしまった次第。

レストラン側としては、何時頃から何人位のお客様が入るだろうと見越してメニューを準備して置くべきではなかつたか。土地連としてもホテル側にどのように打ち合わせ、指示していたのか？

一夜明けて大会当日ホテルからバスにて大会会場の旭川大雪アリーナに到着。受付で大会参加人員を聞くと約四千人とのこと。土地改良関係の会合では最大規模である。会場入口では、来年度は福島県が開催当番県と云うこと、福島県産の「もも」が配られ大変好評の様子であった。会場に入ると県毎に整然と椅子が並べられ通路には各県の座席案内プラカードが置かれ、プラカードを確認しながら進むと福島県は時期当番県と云うことで最前列に配置されていた。

# 年男女年男年女

午前の部は大会会場に隣接する産業振興センター内にて併催行事として開催されている北海道展「水と大地の恵み」で、北海道の開拓史と現代の道内大規模農業状況をパネルを通して見学、又、物産展会場では特産品の展示・販売が盛況に行われていた。

ホテルを九時に出発し、

式典開始十二時五十分までの間、時間をもて余し気味の参加者が、式典会場ロビーにあふれ、会場入口付近は入場を待つ参加者で大混雑状態であった。

大会式典は定刻より開始され全土連会長挨拶から始まり歓迎のことば、そして

来賓として農林大臣（代理・構造改善局長）の祝辞があり、式次第は進み「次期開催県は福島県」と紹介され、歴史と伝統に輝く大会旗は小沢北海

道土連会長より梶木全土連会長を介して橋本福島県土連副会長に引き継がれた。

橋本副会長より次期開催県として「緑の大地、光る水、永久に育む世纪の知恵」をテーマに農業農村整備事業が果たす新しい役割と農業農村

の魅力や重要性をアピール出来る大会としたい旨の力強い挨拶があり、本県の美しい自然そして多様な伝統・文化や豊かな特産物と、「うつくしま未来博」も開催中であることも併せ紹介されると、二十一世紀の幕開けとなる第二十四回福島県大会を期待する大拍手が会場いっぱいに鳴り響いた。

第二部は「食糧・農業」新時代といいうテーマで記念シンポジウムが開催され、NHK解説委員中村靖彦氏にあふれ、会場入口付近は入場を待つ参加者で大混雑状態であった。大会式典は定刻より開始され全土連会長挨拶から始まり歓迎のことば、そして来賓として農林大臣（代理・構造改善局長）の祝辞があり、式次第は進み「次期開催県は福島県」と紹介され、歴史と伝統に輝く大会旗は小沢北海道土連会長より梶木全土連会長を介して橋本福島県土連副会長に引き継がれた。

第三部は歓迎アトラクションとして、海外演奏旅行も経験し高校日本一の栄冠に輝く旭川商業高校吹奏学部の「エルクンバンチエロ」「ど演歌エキスプレス」等々が演奏され、和やかな会場ムードとなり一日目の幕を閉じた。

## 「ハーモニー」

福島県土地連 佐瀬純子

二十世紀最後の冬、二十一世紀を前にふと思ふことがあります。

「何を残すべきか？」世界遺産は勿論のこと、無形の文化財や伝統芸能、名曲の数々、言ってみれば切りがありません。それ以外に私が選んだものに「美しい自然」があります。

二日目は北海道内の事業視察となり、AコースからGコースに別れ、我々は福島県は他県と共にバス六台を連ね旭川市→富良野市→十勝町→帯広市に至る道営大区画ほ場整備事業、馬鈴薯集荷場、道営公共牧場整備事業等の視察となつた。

バスガイドの案内は余り無く（新人？）ほとんどが添乗した土地連職員の説明が主になった事と質問内容も事業に関してが多く、職員の方も答弁に容易でなかつたと思うと同時に、大会参加者と直接意見交換の出来る唯一の添乗者となるので、来年はその辺を踏まえて添乗員の選考をするべきではないかと思えた。

来年は当福島県も北海道に勝るとも劣らぬ演出をと本県参加者全員が痛感したことと思う。

福島大会まであと数ヶ月：関係者始め県民を挙げて福島大会の準備に取り組み盛会裡に式典が終了できることを願つて筆をおく。

漠然とした言葉ですが、自然の恩恵に浴することの多い私達の生活は豊かさに満ち溢れています。豊か過ぎるが故に気付かなかつた地球からのメッセージ（SOS）が聞こえ始めた昨今、人類は漸くその思い腰を上げました。自らの手によつて自らの

環境を壊している事を悟ったのです。

今世紀最後の便に間に合ったのです。

人類が人間らしくあるためにも、

「地球に優しく、環境にも優しい、

そして人にも優しい」の三代原則を

インプットし、そのサイクルを維持

するとと共にバランス良くハーモニー

を奏でられるよう、限りある資源の

を奏でられるよう、限りある資源の

節約と有効利用に努めたいものです。

夢と思われた「宇宙旅行」も現実

となる日が刻一刻と近づいています。

いつまでも青く美しい地球が太陽と

共に存在していますように…。

二十一世紀、新しい時代の始まり

です。

勢はどうなのか少し調べてみました。

「今年の太歳は巳、豊かな感受性

と緻密な思考力、物事を実現するた

めの粘り強さを与えており運気は若

い頃より中年・晩年へと次第に上昇

していき負けず嫌いで高い理想を目

指し完全主義を貫こうとする」と書

かれています。

この運勢に少しでも近づいていけ

るよう私なりに努力しなければと考えています。

心に柔軟さを持ち仕事面でも今ま

で以上に緊張感をもちながら確実な

事務処理をと決意を新たにいたして

おります。そして米余り減反問題等

で厳しい立場におられます組合員の

皆様の暮らしが少しでも良くなるよ

うに一緒に頑張って行きたいと考え

ております。

最後になりましたが、会員の皆様

の御健勝と今後益々のご活躍を心よ

り祈念いたしまして私の年女として

の抱負にかえさせていただきます。

## 米余り時代ではない

福島県土地連 松浦孝義

米余り時代と言うマスコミ情報が

目にできます。

日本の米は、さらなる減反と言つて  
苦しい状況にますます進むことにな  
っていると思います。その為にも女性  
がもっと学習をし男性と共に問題解  
決に取り組み女性もあらゆる分野に  
進出し男性と共に責任を担い生き生  
きと輝いて男女共同参画の時代を歩  
んで行かなければと思います。この  
ような中で年女として私の巳年の運

台は食べていた。そのことと現在で  
米を取り巻く環境、状況変化があつ  
たとは、とても考えられない。ただ  
何となく米を食べなくなっていたよ  
うな気がします。

生産者側が戦略的で地道な需要拡  
大、あるいは、確保のための活動を  
やらないうちにパンやラーメンに少  
しづつ侵略されてしまったのです。

日本の米問題を考えるには、まず

明けましておめでとうございます。

二〇〇一年・二十一世紀  
新たな時代への幕が開かれ  
ました。輝かしい新春を皆

子化・高齢化はますます進み公的年  
金は破綻に向かっています。それに  
ゴミ問題、オゾン層破壊、地球温暖  
化、環境問題も深刻さを増しています。

このような社会の大きな変動の中  
で社会に対応出来る実力を培い豊か  
な社会、地域作りが大切になってしま  
っています。その為にも女性  
がもっと学習をし男性と共に問題解  
決に取り組み女性もあらゆる分野に  
進出し男性と共に責任を担い生き生  
きと輝いて男女共同参画の時代を歩  
んで行かなければと思います。この  
ような中で年女として私の巳年の運

変革期を迎えております。一昨年は  
三十八年ぶりに農業基本法に代わる  
“食料・農業・農村基本法”が制定  
されました。経営感覚に優れた安定  
的な扱い手を通して多面的機能が充  
分に発揮できる農業・農村に変わり  
つつあります。又社会問題として少

## 年男女

# 年男女年男年女

この点を解決しないと、年々需要は低下し、減反問題はどんどん続いていくと考えます。農業問題は、国家レベルの戦略と消費者を対象とした、マーケティングレベルの展開と同時に考えるべきであり、米報道には、国民の食料としての視点はあっても、消費者の食料・食品と言ったところは強くはなく、生産者側が消費者のことを見極めなかつた、と言うことが「米食べず現象」につながったと言える。例えば一人あたり年間七十キロ台に戻すことなどが不可能なのか、わずか数パーセントの消費拡大を数年かけて実現することが難しいことなのか、競争相手であるパンやラーメン企業などは、年間一パーセント程度の伸びで満足するのだろうか。米のように、前年度割れが通常のように続いても、担当者は責任を問われないのだろうか、そこが大切だと思います。ところが、状況が「米余り時代」と言った言葉で集約されると、マーケティング面での主体責任は消え、政策が悪いと言う事になっているのではないか、米の消費拡大はある面で生産

者側のマーケティングの弱さだとおもいます。

日本の農業は「国民の食料」という枠の中で保護されてきたので、急に「消費者の食料・食品」として販売する状況になつても、マーケティング展開が弱いのはしょうがない。

スーパーなどでは各地からブランド米が「大競争の安売り」をしている。産地間競争だけを強調したマイナス面だけが現れ、マスコミなどが乗せられる。これでは展望はなく、今大切な事は生産者側が「日本国農業組織」として、連携し、競争よりも協調のもとで「確実な需要拡大」を行う戦略を進める事が大切だと思います。



**永  
年  
勤  
続**

## 洗い端「あらいばた」

鮫川村土地改良区 鷺野谷 弘行

我家の庭の隅に、昔から大根や白菜などの野菜類或いは鍬や長靴などなんでも洗う小さな溜池がありその中にドジョウ、蛙、水スマシ、タガメ、ゲンゴロウ、等々沢山の生き物が住んで居て季節によりその生き物が変わることを覚えている。蛙の中でも土蛙は余り好感は持てないが赤蛙などは子供の頃に捕まえて食したことも度々でした。この洗い端は我が家東側にある沢から出てくる水を溜めているのですがここに来るまでは途中に少し大きめな溜池があり、それから水田の用排水路となりこの洗い端に注いでおります。昔は寒さで凍ることも度々でありましたから子供の私達は水すべりをしてよく遊びました。水田の休耕や転作制度が強化されたのに伴い隣にあった水田を埋立てて農道や鯉用の池にした時に小さくしたので今では昔の面影はなくなりましたがこの洗い端に今でもイモリと云う生物がおります。

また、イモリを漢字にすると「井守」となるそうです。何故かと云うトイモリは水のきれいな井や堰にい

またの名をアカハラと言って生きた化石みたいな動物（両棲類で蛙の仲間）であります。このイモリを黒焼きにして食すると薬用になるとか子供心に聞いた事もありましたが薬効の程は疑問であります。ところが最近目にした本によりますと、夫婦仲良く暮らすのにとっても良い薬との事、どのような効果があるのかは勇気のある皆様方誰でも良いですから一度お試し下さい。（但し季節によりどこからか姿を現すのでいつでも住んでいると云う事はありません）またこの本の中で最近アメリカに愛玩用として輸出されていると載つておりましたが、本当か否かはまだ確認しておりません。会員の皆様方でアメリカに行く機会がありましたら確認をこの誌上を拝借してお願いしております。

るもの、と云う意味でありますから我家の洗い端はまだ環境が良いのかなと自負しております。両棲類の代表者でもあるこのイモリは、日本をのぞいては世界中のどこにも見られないとのこと、日本特産の動物として大切に保存して参りたいと考えております。

さて、私も此の道に入り三十一年になります。当初は二十年で村の水田すべての圃場整備を完成させたい計画でありましたが、當時の流れと申しましょうか。今では夢半ばとなっていました。昭和四十四年七月から



生もおられて、講習ノートを机の中にみつけては、當時の懐かしい思い出となってしまいました。幸いにして換地士なる試験にも合格しまして講習会に参加させて戴いたことへの感謝の日々でもあります。換地計画の苦労はまたの機会といたしますが、毎年秋に発行する償還金の納付書を手にして事務所に来られる農家の皆さん方のお話には、圃場整備の善し悪しもあり、又農政への批判等々で私は困り事相談員のような存在でもあります。今、村で準備を進めております中山間地域直接支払制度ですが、当初私達が夢に描いていた制度とはかなりの隔たりがあるようと思われてなりません。何故なら、若い担い手や認定農業者の皆さん方ばかりではないと云う事であり、農業の第一線から身を引いた方々の方

がどちらかと言えば主流ではないでしょうか。このような方々では認められないと云うのでありますから、この制度は絵に書いたボタモチ（お萩）の様なものであります。始め苦労もありましたが、土地連の先生方の一からの手解きで三ヶ月に亘る講習会を無事終了する事ができました。しかし、その先生方も既に退職されたり、また黄泉路に旅立ちされた先生もおられて、講習ノートを机の中になってしましました。幸いにして換地士なる試験にも合格しまして講習会に参加させて戴いたことへの感謝の日々でもあります。換地計画の苦労はまたの機会といたしますが、毎年秋に発行する償還金の納付書を手にして事務所に来られる農家の皆さん方のお話には、圃場整備の善し悪しもあり、又農政への批判等々で私は困り事相談員のような存在でもあります。今、村で準備を進めております中山間地域直接支払制度ですが、当初私達が夢に描いていた制度とはかなりの隔たりがあるようと思われてなりません。何故なら、若い担い手や認定農業者の皆さん方ばかりではないと云う事であり、農業の第一線から身を引いた方々の方

がどちらかと言えば主流ではないでしょうか。このような方々では認められないと云うのでありますから、この制度は絵に書いたボタモチ（お萩）の様なものであります。始め苦労もありましたが、土地連の先生方の一からの手解きで三ヶ月に亘る講習会を無事終了する事ができました。しかし、その先生方も既に退職されたり、また黄泉路に旅立ちされた先生もおられて、講習ノートを机の中になってしましました。幸いにして換地士なる試験にも合格しまして講習会に参加させて戴いたことへの感謝の日々でもあります。換地計画の苦労はまたの機会といたしますが、毎年秋に発行する償還金の納付書を手にして事務所に来られる農家の皆さん方のお話には、圃場整備の善し悪しもあり、又農政への批判等々で私は困り事相談員のような存在でもあります。今、村で準備を進めております中山間地域直接支払制度ですが、当初私達が夢に描いていた制度とはかなりの隔たりがあるようと思われてなりません。何故なら、若い担い手や認定農業者の皆さん方ばかりではないと云う事であり、農業の第一線から身を引いた方々の方



がどちらかと言えば主流ではないでしょうか。このような方々では認められないと云うのでありますから、この制度は絵に書いたボタモチ（お萩）の様なものであります。始め苦労もありましたが、土地連の先生方の一からの手解きで三ヶ月に亘る講習会を無事終了する事ができました。しかし、その先生方も既に退職されたり、また黄泉路に旅立ちされた先生もおられて、講習ノートを机の中になってしましました。幸いにして換地士なる試験にも合格しまして講習会に参加させて戴いたことへの感謝の日々でもあります。換地計画の苦労はまたの機会といたしますが、毎年秋に発行する償還金の納付書を手にして事務所に来られる農家の皆さん方のお話には、圃場整備の善し悪しもあり、又農政への批判等々で私は困り事相談員のような存在でもあります。今、村で準備を進めております中山間地域直接支払制度ですが、当初私達が夢に描いていた制度とはかなりの隔たりがあるようと思われてなりません。何故なら、若い担い手や認定農業者の皆さん方ばかりではないと云う事であり、農業の第一線から身を引いた方々の方

がどちらかと言えば主流ではないでしょうか。このような方々では認められないと云うのでありますから、この制度は絵に書いたボタモチ（お萩）の様なものであります。始め苦労もありましたが、土地連の先生方の一からの手解きで三ヶ月に亘る講習会を無事終了する事ができました。しかし、その先生方も既に退職されたり、また黄泉路に旅立ちされた先生もおられて、講習ノートを机の中になってしましました。幸いにして換地士なる試験にも合格しまして講習会に参加させて戴いたことへの感謝の日々でもあります。換地計画の苦労はまたの機会といたしますが、毎年秋に発行する償還金の納付書を手にして事務所に来られる農家の皆さん方のお話には、圃場整備の善し悪しもあり、又農政への批判等々で私は困り事相談員のような存在でもあります。今、村で準備を進めております中山間地域直接支払制度ですが、当初私達が夢に描いていた制度とはかなりの隔たりがあるようと思われてなりません。何故なら、若い担い手や認定農業者の皆さん方ばかりではないと云う事であり、農業の第一線から身を引いた方々の方

新年おめでとうございます。  
私が、土地改良区にお世話をなったのは、昭和四十五年の春であった。東京オリンピックから六年。その年は、大阪で万博が開かれたものの、日本の高度経済成長は、まるで子供に忘れられた風船が静かにしばむよう、衰退の兆しを見せてきた年でもあった。そしてその三年後、あのオイルショックが列島を襲った。また「農は国の基」という、ひとつの神話が揺らぎ始めたときでもあった。昭和四十六年に「稲作転換対策」という言葉が世に出てから、農地に対する愛着心が薄れ、農地と人の結びつきが希薄になってきたよう思う。そんな中で、昭和四十九年、我が村は長い間水不足に悩まされてきた人々の悲願であった県営かん排事業白沢地区に着手した。その事業は、五年で完了する予定だったが、二十六年を費やし、今ようやく完成のメドがついた。

このたびお陰様で、勤続三十年の表彰を受け、脳裏に浮かんだのは、

新年おめでとうございます。  
私が、土地改良区にお世話をなったのは、昭和四十五年の春であった。東京オリンピックから六年。その年は、大阪で万博が開かれたものの、日本の高度経済成長は、まるで子供に忘れられた風船が静かにしばむよう、衰退の兆しを見せてきた年でもあった。そしてその三年後、あのオイルショックが列島を襲った。また「農は国の基」という、ひとつの神話が揺らぎ始めたときでもあった。昭和四十六年に「稲作転換対策」という言葉が世に出てから、農地に対する愛着心が薄れ、農地と人の結びつきが希薄になってきたよう思う。そんな中で、昭和四十九年、我が村は長い間水不足に悩まされてきた人々の悲願であった県営かん排事業白沢地区に着手した。その事業は、五年で完了する予定だったが、二十六年を費やし、今ようやく完成のメドがついた。

今まで頑張ってくれた職員と、多くの土地改良区の皆さんに世話をなつたこと、そして「水をもつて助かつた」という一言であつた。振り返ってみると、仕事に自信をなくしたことも何度かあつたが、それを乗り越えて、今まで勤めることができたのは、土地改良区に関わる皆さんとの出会いと会話があつたからだと、つくづく思う。

めまぐるしく変わる農業情勢の中で、期待と不安が交錯した三十年。そこには、健康と感謝と、少しの頑張りがあった。この三つを胸に、これからも焦らずに歩いて行きたい。私は、日本の食生活の原点であることを忘れずに、そして豊作を心から喜ぶことができる日の来ることを信じて。

本当に、有難うございました。皆さんのご健勝と、ご活躍をお祈りいたします。

三

安達疏水土地改良区

森

久

十

年

あ

表郷村土地改良区

荒井

宏

ゆ

二〇〇〇年の夏にジイちゃんの仲間入りをした。仲間入りといつても、そういう組織があつて、そこへ入会したというわけではない。三十過ぎの娘がようやく母親になったのである。

そうして秋口までせっせとカーボンロッドを操る。この時期、空振りはまずない。私もこれまでに久慈川、黒川、那珂川、伊奈川と案内しているが結構いい釣課をあげている。

一人娘が嫁いで七年になる。日本の標準時でおなじみの明石というところで、甲子園よりも、もうちょっと先になる。阪神大震災の震源地から十キロと離れていないところだが、

活断層の走りからは若干ずれていたので、あのときは建物のひびわれくらいで何とか難を免れた。

このバカ夫婦ときたら「釣りバカ日誌」の浜ちゃんのところと違つて、

揃いも揃つて釣りキチなのである。

釣り雑誌に何回となくペアで登場するほどの折り紙付きだ。以前は海だけだったので数年前からは夏場の鮎もやるようになった。

彼らは春先からもう鮎の解禁を待ちこがれる。初夏の解禁日をさかにそれからは毎週末どこかの川へと向かう。渴水のときや、川がひどく増水したときは海釣りに切りかえるが、そうでない限り鮎である。あるときは四十万十川だったり紀伊半島だったり、はたまた、日本海にそそぐ川だつたり九州だつたりと。

増水したときは海釣りに切りかえるが、そうでない限り鮎である。あるときは四十万十川だったり紀伊半島だったり、はたまた、日本海にそそぐ川だつたり九州だつたりと。運転席を代わりながら片道六時間もかかるというのに、十回出かけても七、八回はだいたいボウズだそうで、クーラーボックスは单なる氷の入れ物のまま帰路に就く。そんなときは、途中の農家に立ち寄つて新鮮な有機野菜とか果物を分けてもらつて帰るしかない。そして次の週末のお天気を祈るのである。

なにしろ海釣りがしたくてニュー  
ジーランドへ新婚旅行に出かけたほ  
どで、その際にバカ新婦のほうにも  
勘の悪いやつというか、落語に出て  
くる「与太郎」みたいな、スズキに  
似た魚がヒットしたからたまらない。  
たちまち洗脳されてしまつたという  
わけである。

これまでに何度もクール宅配便で

届けてもらつてゐるが、マナガツオ  
だとか鯛にそつくりのメジナなら捌  
くのも手ごろのサイズである。だけ  
ど、彼らが上げるスズキは幅のある  
ヒラスズキだから少し厄介で、大モ  
ノが届いたときには悩んでしまつて  
知り合いの寿司屋さんに何べんか頼  
んだりしてゐる。

スズキの皮を湯引きしたもの、を、  
こおり水でしめて、スダチかレモン  
というのもなかなかの珍味である。

カバンチもおいしかった。

ドクターストップをくつて、さす  
がに身重のほうは遠出を自重したよ  
うだが、もう一方は相変わらずの太  
公望氣取りである。そんな友釣りシ  
ズンの真つ最中に生まれたこどもの  
命名にあたつても、バカぶりを發揮  
した様子がうかがえる。

「アユの季節。鮎、鮎、鮎。きま  
りやな。ん? 女の子やからひらがな  
らすだもの。」

も可愛らしくてええか」というわけ  
で、付けた名前が『あゆ』。

女児誕生の知らせを受けてさつそ  
く家内が出かけていった。シドニー  
オリエンピック開幕まで、あとひと月

あまりの時期だったので、しばらく  
滞在して帰った家内に尋ねてみた。  
いはく、「そうねえ。砲丸投げか重  
量挙げかな」と。

つまり、稚アユとか若アユのイメー  
ジではないということか。だけど、  
写真で見る限りではキューピーさん  
みたいに丸目をしてゐるし、ほ  
んの少しだけ欲張つて見ればそこそ  
この顔立ちではないか。

元気に育つてほしいと思う。やが  
て、頑丈な足腰で、親子共々磯釣り  
の岩場に立つのかもしれない。

「あゆクン、おひな祭りの頃、福  
島からジイちゃんが会いに行くぞ。  
待つてな。風邪ひくなよ」

その頃あの夫婦は、少しだけ親バ  
カにもなつていて、二つ目の折り紙  
がついているのかもしれない。

まあ、いいか。せつせと荷造りを  
してちょくちょく発送する家内など  
は、すでにバカになりきつてゐるし、  
そのまま亭主のほうだって負けず劣  
りに深く感謝している所です。昭  
和四十五年団体営ほ場整備事業施行

## 土地改良区の思い出

昭和村土地改良区 小林 隆甫

永年勤続表彰の感想を書けとの原  
稿依頼を受けましたが、表彰の感想  
でもないが私の土地改良勤務の月日  
を思い起こして見る事としました。

思いを記する前に永年勤続の表彰に  
御推薦下さいました皆様に心より厚  
くお礼申し上げます。さて、私は昭  
和四十一年施行の団体営かんばい事  
業より土地改良事業に初めて関わつ  
てきました。当時我が村には土地改  
良法制定により土地改良区を設立し  
ておかない後日不都合が生じるの  
ではないかとの事から、各集落に設  
立されてあつたが特別に事業を行つ  
て来た訳でもなかつたので、役員は  
名前だけで勿論職員もおらなかつた。  
先に記した団体営かんばい事業そし  
て昭和四十二年、四十三年の団体営  
農業構造改善事業のほ場整備を臨時  
の係を定め施行して來たのであるが、  
此の様な体制でよく出来たものだと  
思ふ。前会津若松農地事務所の皆さん  
のご指導により完了する事が出来  
た事に深く感謝している所です。昭  
和四十五年団体営ほ場整備事業施行

により名称変更し昭和村土地改良区  
となりここから常勤職員二名体制と  
成りました。私もここから職員となつ  
た者です。しかし名称が昭和村となつ  
ても村全域が地区となつたわけでな  
く村の一部が区域となつたもので今  
後どうして村全区域とするべきかと  
思ふ。土地改良事業を起こし既存の  
土地改良区の吸収合併及び地区編入  
をすることにより村全域の土地改良  
区となれるではないか、しかし今まで  
で賦課金を徴収されたことのなかつ  
たものが賦課金を出さなければなら  
ぬのかと言う声もあつて理解を求める  
為に苦労した事も今は思い出の一つ  
である。一地区で事業をやりたい  
と言う事になるとおらの地区でもほ  
場整備をやりたいとなつて同じ年度  
に二地区又は三地区が採択となり、  
職員は二人で私は工事関係一切(現  
場、換地等)彼女(渡部)は内部一  
切で施工してまいりました。今思ふ  
と特別に技術があつた訳でもないの  
に、どうにかやってこれたと思うも  
のです。

農業情勢は厳しいと言われてきましたが現実は本当に厳しい状況であります。米一俵一万円の時代が来ると言われておりましたが、山間高冷地の米は今年一万三千円の買取、それが減反の強化、農家は作りたい田も作れない状況となってしましました。ほ場整備の償還金は米一俵で間に合うと言つては場整備を推進して

きた私には残念でならない。まして我が村は高齢化が進み折角整備し美田とした土地が遊休し荒廃していくのではないかと思われてならない。良き農家の時代が来ることを切望したりとめのない文となつたが思い出の一ページとします。

最後に協議会の益々の発展と会員皆様のご活躍をご期待申し上げます。

## 二十三年を支えた「鴨」十五年 我が人生に悔はなし

矢吹土地改良区 大木倉吉

なつかしい矢吹農地事務所時代の追憶

さかのぼること三十七年前、昭和三十八年一月五日、一羽の鴨がおもむろに第二の心の里に浸水した。黒づんだ板塀に囲まれ木造平屋、セメントの屋根、腰板に横並びの飾りのないガラス窓、格式張った玄関斜め向い自転車置場、西側那須連邦方角に広い空地（ソフトができる）その周りに海外青年隊研修所寄宿舎と称し、使用されてなくホコリだらけになつて居た。現在は跡かたもなく矢吹町図書館に変貌を遂げているがこ

若鴨は、事務所に案内され一番奥の事業課の席を与えられ羽根を休める。所内は所長室、総務課、経営課、事業の三課で横並びとなっていた。総務課の女性方が来て一通りの事務用具を貰う。製図用具、鉛筆HB・6Hそして鉄筆、学校へ再入学した錯覚におちいる。さて仕事は「よろずや」である。当時はコンサルがなかつた。現地測量、図化、数量拾い、土坪計算書、計画、設計書作成、淨書、青焼、最初の頃はコピー器がなかつたのですべて手書設計でカーボン赤黒で、変更後設計書五部写しになると大変な力が必要でペンタコが出来た。黒ビカリのあるタイガー計算器がなつかしい。若鴨は県営圃場整備事業中島地区へ！！

五十ccBSチャンピオンバイク所持して居たので若鴨は、中島村吉子川八キロの道のりを走った。小学校近くの駐在事務所へ。工事が進むにつれ阿武隈川下流にいき職員三人で補助女性事務員（臨職）と若鴨含めて五人小さい事務所で、当時は北会津の圃場整備事業と県下で最初の県営圃場整備事業として将来を見据えた画期的な大事業であった。皆んな仕事は誇りを持って真剣で、

若鴨は、事務所に案内され一番奥の事業課の席を与えられ羽根を休める。所内は所長室、総務課、経営課、事業の三課で横並びとなっていた。総務課の女性方が来て一通りの事務用具を貰う。製図用具、鉛筆HB・6Hそして鉄筆、学校へ再入学した錯覚をおちいる。さて仕事は「よろずや」である。当時はコンサルがなかつた。現地測量、図化、数量拾い、土坪計算書、計画、設計書作成、淨書、青焼、最初の頃はコピー器がなかつたのですべて手書設計でカーボン赤黒で、変更後設計書五部写しになると大変な力が必要でペンタコが出来た。黒ビカリのあるタイガー計算器がなつかしい。若鴨は県営圃場整備事業中島地区へ！！

若鴨は、事務所に案内され一番奥の事業課の席を与えられ羽根を休める。所内は所長室、総務課、経営課、事業の三課で横並びとなっていた。総務課の女性方が来て一通りの事務用具を貰う。製図用具、鉛筆HB・6Hそして鉄筆、学校へ再入学した錯覚をおちいる。さて仕事は「よろずや」である。当時はコンサルがなかつた。現地測量、図化、数量拾い、土坪計算書、計画、設計書作成、淨書、青焼、最初の頃はコピー器がなかつたのですべて手書設計でカーボン赤黒で、変更後設計書五部写しになると大変な力が必要でペンタコが出来た。黒ビカリのあるタイガー計算器がなつかしい。若鴨は県営圃場整備事業中島地区へ！！

若鴨は、事務所に案内され一番奥の事業課の席を与えられ羽根を休める。所内は所長室、総務課、経営課、事業の三課で横並びとなっていた。総務課の女性方が来て一通りの事務用具を貰う。製図用具、鉛筆HB・6Hそして鉄筆、学校へ再入学した錯覚をおちいる。さて仕事は「よろずや」である。当時はコンサルがなかつた。現地測量、図化、数量拾い、土坪計算書、計画、設計書作成、淨書、青焼、最初の頃はコピー器がなかつたのですべて手書設計でカーボン赤黒で、変更後設計書五部写しになると大変な力が必要でペンタコが出来た。黒ビカリのあるタイガー計算器がなつかしい。若鴨は県営圃場整備事業中島地区へ！！

若鴨は、事務所に案内され一番奥の事業課の席を与えられ羽根を休める。所内は所長室、総務課、経営課、事業の三課で横並びとなっていた。総務課の女性方が来て一通りの事務用具を貰う。製図用具、鉛筆HB・6Hそして鉄筆、学校へ再入学した錯覚をおちいる。さて仕事は「よろずや」である。当時はコンサルがなかつた。現地測量、図化、数量拾い、土坪計算書、計画、設計書作成、淨書、青焼、最初の頃はコピー器がなかつたのですべて手書設計でカーボン赤黒で、変更後設計書五部写しと一緒に難い言葉であった。しかし當時若鴨は農家で生計を樹てられる農地面積を所有していた。家の経営の中では主力的な存在でもあったので、年間通じての務めは残った家族に労力過重は必然。決断は至難の業であり、ある反面現在を逃げとも考えられたので断わざるを得なかつた。若鴨職は尚も続いた。昭和五十二年から県営三神地区は工事促進するため通年施工に切り変わつた。昭和五十三年は所有農地ほとんどが、工事区域になり、前年度穫れた米が保有米とした。身辺もにわかに忙しくなつた。改良区の総代、換地委員にもさせられた。換地作業は毎晩夜中まで続いた。ある夜集落の公民館で各集落の字界を決めるための会議終了後午前二時外に出た。私の乗ってきたはずのトラックが忽然と消えて居た。

目を凝った。家に帰り確認。知らぬ一言。盗難であった。夜中三時近い頃警察がきてくれた。仕事と言え感心した。その後一ヶ月後に郡山の駐在所前空地から発見されたと警察より連絡あり無事戻った。換地作業時連夜の徹夜の一コマの出来事であつた。

若鴨は、昭和五十二年から地元の

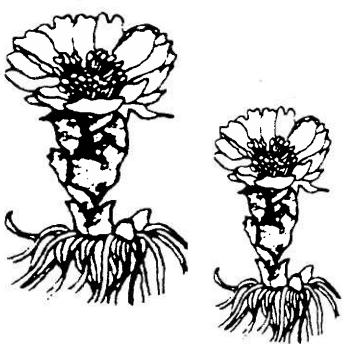
県圃三神地区の仕事に、専念することになった。昭和五十三年、渡鳥若鴨は工事が通年施工のため、季節鳥は廃業とした。今在る矢吹土地改良区出向として、五十四年迄白河農地事務所で勤務した。工事は、まさに最盛期で「仕事の鬼」すさまじいW氏と二人頑張った。昭和五十三、五十四は、三百ヘクタールの土地が、変わっていた。W氏の孤軍奮闘は、大変なものであった。合庁の夜明け窓辺のズメの囁り、なつかしい!!時は流れ土地改良区の仕事!!五十五年我が町役場職員と交換になり、受益団体の矢吹土地改良区へ、少しほ橋渡しができたのかなあとふと思う時がある。長いハード事業仕事からソフト業務、換地、工事、様々な人間模様。土地へ執着心、その渦中に入つた。やはり事業最盛期迎へ十数年前に、県営係長に進められた道に

入り、これも宿命かなあとつくづく思うこのごろである。

季節の渡り鳥若鴨頃一年も欠くことなく十五年間の思い出は忘れることがなくなつかしい。亡くなつた方々、現役のかたがた、今も鮮明に脳裏に焼きついている。得がたい尊い経験をさせていただき礎を培つてくれた方々へ心から感謝の念でいっぱいである。

後半の二十三年余は、私の周りの組合員、歴代の役員の方々、関係機関の職員の方々、沢山のエピソードと尊い経験させていただき人生の糧と思っております。又先短いが関係機関の方々そして身近な土地改良仲間と、新世紀に向けて、新たな歴史を造つていきたいと思うこの頃である。

突然娘の声「お父さん、夕飯だよ」の声、即、感のするどい二番男孫五才カン高い声「お父さんじゃないッ爺ちんでしょッ、お父さんは、ボクのお父さんでしょッ」オッシャル通り異議なし。自宅の机から腰をあげる。年を感じさせる一時であった。



## 子 集 編

あけましておめでとうございます。  
新しい世紀の始めの年、皆様はど  
んなことをお考えでしようか。

二十一世紀は『環境の世紀』にな  
るだろうといわれています。自然環  
境の保全、資源の節減やリサイクル  
利用。いろいろと考えることはあり  
ますが、まず「環境」にどう影響す  
るかを意識して生活すること、生活  
の中で出来ることから始めてみるこ  
とが大切だと思います。

新世紀の始まりを良いきっかけと  
して頑張りたいものです。  
今年も明るく楽しい年になります  
ようお祈りいたします。



# “土地改良事業に関する業務は 土地連がお手伝い”

土地改良事業を行う会員の協同組織である県土地連は、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営の確保及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。

## 1. 技術的援助

- (1) 測量調査設計 (2) 実施・変更・出来型設計及び施工管理 (3) 確定測量
- (4) 換地計画及び登記申請書作成等の受託

## 2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談及び農業基盤整備資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
  - ・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換地センター
  - ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農村総合整備センター
  - ・農村総合整備事業の啓蒙普及及び技術の向上、指導

## 3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務 (2) 換地業務設計及び経費積算 (3) 確定測量業務
- (4) 水文 (5) 水収支 (6) 土地改良区の賦課業務 (7) 各種土量計算



# 福島県土地改良事業団体連合会

会長 佐藤 栄佐久

〒 960-8502 福島市南中央三丁目36番地  
TEL 福島 (024) 535-0371 (代表)  
FAX 福島 (024) 535-1200